ヤマト王権の支配構造を解き明かす

古墳から飛鳥時代に地方支配の重要な役割を担った国造制と屯倉制を考察した 20 本の研究論文と 2 本のコラム、文献目録・関係史料集・ミヤケ一覧を収録。出土文字資料や最新の発掘成果を取り込み、多角的視点から古代社会の実像に迫る研究の到達点。

『国造制の研究』
『国造制・部民制の研究』
待望の続刊！

国造制（こくぞうせい）・屯倉制（みやけせい）の研究

篠川 賢・大川原竜一・鈴木正信 編著

2026 年 1 月 10 日刊行　ISBN978-4-8406-2654-5 C3021 ¥11000E
A5 判・上製・カバー装・552 頁　定価 12,100 円（本体 11,000 円＋税 10%）

【本書の特長】

国造制・屯倉制とは　国造制は、王権が各地の有力氏族を国造（地方官）に任命してそのクニ（管掌範囲）の支配権を保障し、労働力・軍事力・物資等を提供させる制度である。一方、屯倉は、交通の要衝に置かれた政治的・軍事的拠点、あるいは貢納奉仕の拠点と理解されている。この二つの制度は、いずれも 6 世紀前半を画期として成立したと見られており、ヤマト王権の成立過程や支配構造を考える上で不可欠な研究テーマである。

屯倉制研究の現在　『古事記』『日本書紀』『先代旧事本紀』等には約 145 の国造が掲載されており、氏族分布や古墳群の消長を手がかりに、国造制の実態に関する研究が蓄積されてきた。それに対して、固有の名称が知られる屯倉の設置記事は約 60 例のみであり、史料的に大きな制約があるため、その実態は不明な点が多い。このことが国造制との関係や、ヤマト王権の支配制度を総体的に考察する上での大きな障害となっていた。

新史料の増加　近年では、出土文字資料（木簡、墨書・刻書土器、文字瓦等）が増加するとともに、屯倉段階にまでさかのぼると推定される官衙遺跡の発掘調査が進展し、さらには歴史地名に関する充実したデータベースも公開されるようになった。こうした最新の成果を踏まえることで、屯倉の実態をより具体的に解明することが可能になる。

最新研究を集大成　本書は、国造制・屯倉制をテーマとした共同研究の成果として、文献史学分野および考古学分野から寄せられた計 20 本の研究論文、2 本のコラムに加え、文献目録・関係史料集・ミヤケ一覧を収録することで、ヤマト王権の地方支配制度に関する研究の到達点を示すものである。全編書き下ろし。

八木書店　〒 101-0052　東京都千代田区神田小川町 3-8
Tel:03-3291-2961 ／ fax:03-3291-6300　pub@books-yagi.co.jp　https://catalogue.books-yagi.co.jp/

【目　　次】

全編書き下ろし

論　考　編

第Ⅰ部　国造制・屯倉制の成立と展開

1　ミヤケと国造制 ―― 篠川　賢
2　ミヤケの本質と歴史的意義 ―― 大川原竜一
3　安閑朝における屯倉設置の史実性―津田・原島両説の検証を踏まえて― ―― 鈴木正信
4　木簡にみえる屯倉 ―― 亀谷弘明
5　ミヤケと評制に関するノート―倭王権の視点から― ―― 堀川　徹
6　大化前代地域経営拠点論序説 ―― 渡部敦寛
〔コラム〕古代の馬匹生産と国造・屯倉 ―― 河野保博

第Ⅱ部　国造制・屯倉制と地域社会

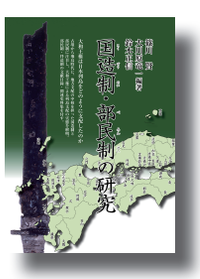
1　稚贄屯倉の成立 ―― 三舟隆之
2　播磨国「縮見屯倉」からみるミヤケの一側面 ―― 中村友一
3　筑紫国造とミヤケ ―― 酒井芳司
4　三宅神社とミヤケの関係―越後国古志郡三宅神社の検討― ―― 宮永(片桐)廣美
5　倭王権の東北進出と国造 ―― 永田　一
6　特別史跡・ユネスコ「世界の記憶」にみるミヤケ―山上碑・金井沢碑にみえる三家について― ―― 須永　忍
7　茨田堤・茨田屯倉と茨田氏 ―― 溝口優樹
〔コラム〕伊甚屯倉設置の前史 ―― 小川宏和

第Ⅲ部　考古学からみた国造制・屯倉制

1　大和国のミヤケ ―― 清水康二
2　ミヤケをつなぐ道 ―― 小嶋　篤
3　相模のミヤケ関係氏族と鬮川水系の一様相―河内と相模地方との関係も視野に― ―― 須藤智夫
4　削平された古墳群―橘花屯倉から橘花評へ― ―― 栗田一生
5　古墳時代後期集落の様相とミヤケ―橘花屯倉を集落跡から模索する― ―― 東　真江
6　横穴式石室からみた関東地方の社会集団とその特質―国造制・屯倉制に接近するために― ―― 荒井啓汰
7　福岡県岩戸山古墳＝磐井墓説の学史整理と展望 ―― 小森哲也

史　料　編

1　屯倉制関係文献目録 ―― 大川原竜一・永田一 編
2　屯倉制関係史料集 ―― 鈴木正信・宮永(片桐)廣美・東真江 編
3　ミヤケ・ミヤケ関係地名・ミヤケ人・ミヤケ氏(有姓・無姓)一覧 ―― 加藤謙吉 編



【好評既刊】篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編著

『国造制（こくぞうせい）・部民制（べみんせい）の研究』

ISBN978-4-8406-2222-6　定価 11,000 円（本体 10,000 円＋税 10%）

詳細目次は
QR コードから

ヤマト王権は日本列島をどのように支配したのか。古墳から飛鳥時代に、地方支配の中核を担った国造制と部民制に注目し、ヤマト王権による列島支配の実態を、15 本の論考と 3 本のコラムで解明。史料編として、部民制・伴造制の文献目録・関係史料集を付す。（『国造制の研究―史料編・論考編―』は品切）

申込書

篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編著／八木書店刊　　2026 年 1 月 10 日刊行

国造制・屯倉制の研究（こくぞうせい・みやけせいのけんきゅう）〔　　〕冊

ISBN978-4-8406-2654-5 C3021 ¥11000E　定価 12,100 円（本体 11,000 円＋税 10%）

お名前（ふりがな）	TEL
ご住所　〒	FAX
	E-MAIL

取扱店（番線印）

2025.12 PP17000